御前山ビオトープ通信

平成27年5月31日

第47号

発行：御前山ダム環境センター
編集：NPO「美しい田園２１」清野
メール：　denen21@hb.tp1.jp
ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞ：　http://w01.tp1.jp/~a071771011/

目次

１．　御前山ダム周辺に山桜植栽
２．　平成 27 年第１回御前山ビオトープ育成活動

山桜植栽後に集合

１．御前山ダム周辺に山桜植栽

４月 14 日（火）、御前山小６年生　３１名、先生３名、県北農林事務所から２名、市役所から２名、ボランティア２５名でヤマザクラ計１８０本程度を植栽しました。

小雨もぱらつきましたがなんとか天気ももち、生徒たちはヤマザクラに自分のネームプレートを取り付けると、自分だけのヤマザクラになったかのように愛着がわいたようでした。

雨がぱらついているのも忘れて熱心に、丁寧に植栽しました。

山桜の植栽は御前山ダムが完成し、ダム湖が姿をあらわした頃、湖に映える日本一の山桜の郷を作ろうと地元の取り組みとして始まりました。東日本大震災直後の平成 23 年の春から、小学校 6 年生の卒業記念を兼ねて実施されてきており、毎年 200 本近く植栽し、今年で千本近く植えたことになります。

4月 15 日　朝日新聞

第3種郵便物認可　朝日

地域の自然 後世に伝える

常陸大宮の御前山ダム周辺

春は自生の山桜、秋には紅葉を鮮やかに湖面に映すダム湖が常陸大宮市の山あいにある。周辺の豊かな自然は地域の宝。思いを同じくする住民らが保全活動などを始めて10年あまり。14日には、地元の小学生に手伝ってもらう恒例の山桜の植樹をした。

午前8時。市民団体「御前山ダム環境センター」の住民ら約30人が植樹場所に続々と集まってきた。1時間半後にやってくる御前山小学校の6年生31人のために、ごみを拾い、事前に掘った穴のそばに苗木を1本ずつ置いていった。

小雨が降り出したころに子どもたちが到着。住民たちは手ほどきをしながら「毎年、見に来るんだよ」「3年たったら咲き出すから」と声をかける。なかなか返事はない。しかし学校に戻るときに男児の声がした。「卒業したら、みんなでここに来ようぜ」

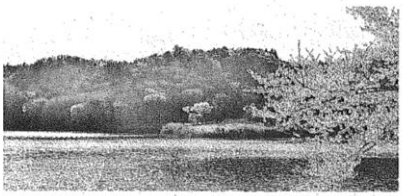
灌漑用の御前山ダムは20年完成。水没する場所に生息していた希少な動植物の保護のため、南西に約3キロ離れた檜山地区に04年から保護区域（ビオトープ）の整備が進められた。その中心を担った檜山の住民に加え、広く市民が参加できる組織に、と09年にセンターができた。

檜山地区とセンターは共同でビオトープやダム周辺の環境整備をしてきたが、昨年3月末で地区としては活動から離れた。著しい高齢化が理由だった。先月の時点で31世帯77人中39人が65歳以上。高齢化率は50％を超えた。

ただ現在でもセンターの活動の中心は檜山の住民だ。今春、副会長から会長に就いた國安重身さん(80)は元区長。「何もしなければ古里がなくなる。植樹や歩く会などを催して地域の活力維持に努めたい」

継続的な活動が支援の輪を広げている。ダムを管理する農林水産省や首都圏のNPO、ボランティア団体のほか、最近では社員研修を兼ねて草刈りなどを手伝ったり、活動資金を助成したりする大手企業も出てきた。地元の建設会社も重機を無償で提供したり、30代の社員が事務局の作業を担ったりしている。

異動で今月、生まれ育った御前山の市総合支所に戻ってきた石崎重昭・経済建設課長(58)は「センターの活動はコミュニティーの存続に力となっている。同じような集落のモデルになるよう思う」と話している。（猪瀬明博）



▲山桜が多く自生する御前山ダム周辺＝9日、常陸大宮市 ▼御前山ダム環境センターのメンバーに教えてもらい山桜を植樹する児童ら＝同市

恒例の山桜植樹、小学生が手助け

皆で一緒に頑張りました！

２．平成 27 年第１回御前山ビオトープ育成活動

子供達と一緒に

例年は 6 月に草刈を行うことが多かったのですが、ビオトープの状況をみると、今年はかなり野草の成長が早く、移植種のために早めに実施しようということになり、急きょではありましたが 5 月 29 日(金)に実施することにしました。

当日は連日猛暑にもかかわらず、一転して雨天も心配されましたが、午前中は何とか持ちそうな気配でした。御前山小学校の 5 年生達 25 名がバスと途中から徒歩で、9 時半前にビオトープに到着しました。早速藤田先生の「自然観察会」が始まりました。

取水口の根固工

一方、大人の方は定刻にＮＰＯ、事業所などの関係者が約 25 名、地元関係者も約 25 名が集合し、区長挨拶や作業打ち合わせを行いました。

地元関係者は当日かなり早く集合時間前から、山桜植栽地の草刈やビオトープの草抜き作業を進めていました。

今回は、大きく 3 班に分かれての作業となりました。

林間の手入れ

まず、昨年チロル式に改修した取水口の根固め工事です。昨年の設置工事で取水機能としては極めて良好な結果を発揮していますが、時間切れで設置しただけの状態でした。これから梅雨や台風の時期となるため洪水に耐える構造としなければなりません。機械の侵入が困難な場所であることから、昨年に続き全て人力施工で、一輪車の上で生コンの手練りをして施工しました。河床も周辺の転石を積み上げ何とか完成しました。典型的な土木の重労働でご苦労様でした。

クリンソウの植栽

次は林間のフタバアオイとイヌショウマの世話ですが、今年は元気そのもので手間は必要ない状態ではありましたが、密植で閉塞しないように周辺の草抜きと間引き移植を一部実施しました。

最後は、皆で湿地の草抜きと刈り払い機を使用しての周辺草刈です。

午前中には順調に作業が進展し見通しがたちました。最後に子供達と一緒に「クリンソウ」の植栽を行いました。

5 月 31 日　朝日新聞

まちかど

▽大人が守る自然を学ぶ

常陸大宮市檜山地区にある自然保護区域「御前山ビオトープ」で29日、管理を担う大人たちと自然観察に訪れた地元・御前山小の5年生が交流。子どもたちは、整備に汗を流す大人たちに感謝の言葉をかけていた。

ビオトープは10年ほど前にできた。ダム建設地から移した希少生物を地区住民らが守ってきた。この日は首都圏からのボランティアやダムを管理する農林水産省那珂川沿岸農業水利事務所の職員も駆けつけ、総勢50人ほどで草刈りや沢水の取水口の修理をした。最後に子どもたちと山野草を植えるなどした。

安藤貴斗君(10)は「植物の勉強ができたのも大人の人たちのおかげ。僕たちも自然を大事にしたい」と話していた。